

21世紀のソリューション特集によせて



取締役社長
篠塚 勝正
Katsumasa Shinozuka

e社会（いい社会の実現）

21世紀を迎え、我々を取り巻く社会環境は大きく変化しております。ITの進展とともにオープンでグローバルなネットワークが形成され、コミュニケーションが飛躍的に高度化されたことにより、社会、経済、産業の構造に世界規模での変革がなされ始めております。

インターネットを中心にして、企業・官庁はもとより、個人、家庭、学校などあらゆる場所を結ぶグローバルなネットワークが構築されたことにより、個々人の多様な生活パターンにあわせて、いつでも何処にいても自分に必要なコミュニケーションができるようになりました。求められるサービスの形態や内容等も当然ながら大きく様

変わりし、次から次へと数多くの新しいビジネスモデルが誕生しています。

こうした新しい「e社会」の出現により、サービスを提供する企業側にも今までとは異なり、より柔軟なスピーディなビジネス展開が求められています。弊社におきましても、お客様が求める新たな価値を確実にご提供しご満足いただくため、従前より培って参りました技術に加えまして、新しいビジネスモデルの構築と展開を進めております。

ネットワークソリューションの沖電気

弊社は「e社会」実現を目指して新しいビジネスモデルを構築し、ネットワークを核としてお客様にソリューシ

e社会とネットワークソリューション

■ネットワークインフラと3つのサービスブリッジ

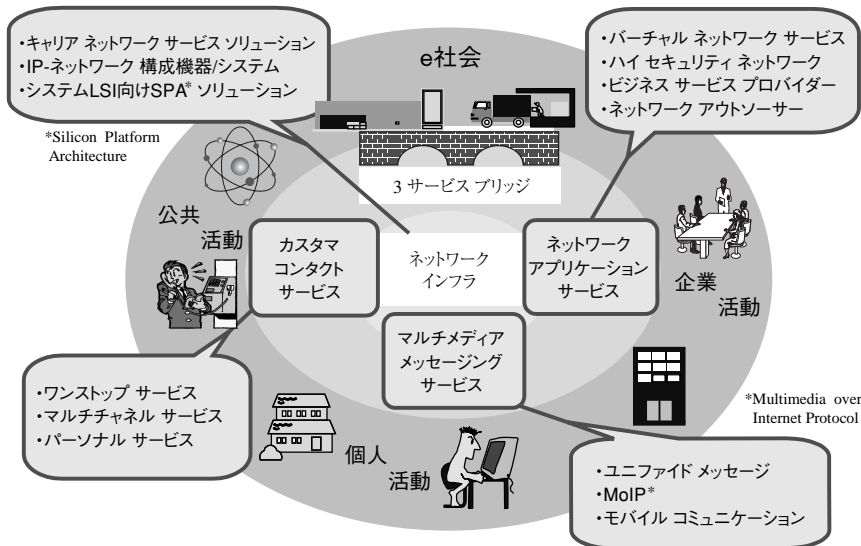


図1 e社会（ネットワーク社会）とネットワークソリューション

ョンを提供することを目的として、1998年に企業ビジョン「ネットワークソリューションの沖電気」を提案致しました。このビジョンのもとに、お客様のご要求にお応えすべく、ネットワークインフラの構築からネットワーク関連の各種サービス提供まで、幅広く事業を展開しております。

具体的には、社会の基盤であるネットワークインフラ事業、そしてネットワークインフラとe社会との架け橋となる3つのサービスブリッジにより、各種ソリューションの提供を行っております。ソリューション提供に際して、他社との必要なアライアンスを積極的に行い、プラットフォーム、ミドルウェア及びアプリケーション等の開発・提供を中心に、事業を展開しております。

<3つのサービスブリッジ>

- ①カスタマコンタクトサービス：顧客との接点において、個人に必要なサービスを、望まれるチャネルで、しかもワンストップで提供していくサービスメニュー
- ②マルチメッセージングサービス：時間に縛られず、場所の制約も受けず、望まれるメディア形式でメッセージを自由自在に提供していくサービスメニュー
- ③ネットワークアプリケーションサービス：ネットワークビジネス実現のためのビジネスロジック提供と、ネットワークビジネスの構築・運用支援を行なうアプリケーションサービスメニュー

また、サービスの対象が個人レベルまで広がっていることから、パーソナル対応・モバイル対応がますます重要となるため、この面からの事業展開にも積極的に注力していく所存です。

新しい研究開発体制

企業を取り巻く環境は驚くべきスピードで変革しており、ビジネス展開も当然そのスピードに合わせた形での変革が求められております。環境問題対応、少子高齢化対応等、目前に迫っている変化要因は数え上げればきりが無いほどであり、いつかとして停滞が許されるような状況にはありません。

このような状況下に柔軟に対応していくため、弊社は2000年4月より社内カンパニー制を導入し、これに先立つ1999年10月には研究開発体制を以下のように改変いたしました。

まず、各カンパニーのコアにかかわる研究テーマについては、事業化へのスピードを加速するため、各カンパニーへ移し、カンパニー内でのバリューチェーンの一環として組み込みました。各研究テーマとともに研究員がカンパニーへ移動し、事業に密着した形での研究開発を

推進しております。

他方、コーポレート（本社機構）の研究開発本部においては、従来沖電気が取り組んできたものの中にない、新しいビジネスにつながる研究を基本とした研究開発を行っております。特に変革の激しい情報・通信の融合領域において、パラダイムシフトに素早く対応し、新しい顧客価値と事業機会の創出につながるネットワークソリューションに注力した研究開発を目指してまいります。これはどちらかと申しますと今まで技術先行型になっていた研究開発を、今後技術開発だけでなく事業化を意識した各種サービスやビジネスモデルも研究対象に含めていくという非常に大きな変革点であり、現在世の中で求められている新しいビジネスモデルに対応していくためには必須の変革と考えております。

また、研究成果の事業化、商品化につきましても、カンパニー内だけの展開ではなく、ベンチャー事業としての立ち上げ、他社への売却移管等様々な対応方法により、広く事業化への展開が図れるよう推進してまいります。

新しい研究開発体制の基に「ネットワークソリューションの沖電気」を企業ビジョンとして掲げつつ、新しい世紀へ向けて新しい沖電気として、お客様の望まれる価値の創出に益々邁進していく所存でございます。

誌名変更についてのご挨拶

皆様と弊社をつなぐ広報誌として長年にわたりご愛読いただきました「沖電気研究開発」の誌名を、今号より「沖テクニカルレビュー」と変更いたしました。

従来の技術論文集から、各カンパニーでの事業化に軸足を移した開発の成果を読者の皆様により分かりやすくご覧いただけるよう見直して、お届けすることといたしました。

事業に密着した技術をベースにしたシステムやアプリケーションのほか、ビジネスの方向などもご紹介し、企業ビジョンである「ネットワークソリューションの沖電気」をご理解いただくため、より読みやすい、分かりやすい、親しみやすい広報誌を目指して、さらに内容の充実に関心掛けてまいりたいと考えております。

市場とより近いところで事業化、商品化された開発の成果が皆様の顧客価値、事業機会の創出にいくらかでもお役に立てれば幸いに存じます。

「沖電気研究開発」のこれまでのご愛読を感謝申し上げますとともに、新しく誕生いたしました「沖テクニカルレビュー」を引き続きご愛読賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

